

2012 年度 小委員会活動成果報告

(2013 年 2 月 8 日作成)

小委員会名	建築空間の質感・色彩設計法小委員会	主 査 名：宮本 雅子 就任年月：2011 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (光環境運営委員会)	委員長名：佐土原 聡 主 査 名：古賀 靖子
設 置 期 間	2009 年 4 月 ～ 2013 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>建築空間における材料の質感と色彩とがイメージに及ぼす相互作用を評価し、質感に対応した新しい色彩設計法を提案することを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初年度：研究課題の展望、画像による色彩・質感記録に関するシンポジウムの開催 ・ 2 年度：質感の表現についてのシンポジウム ・ 3 年度：都市と建築の外部色彩アカデミック・スタンダード関連シンポジウム開催 ・ 4 年度：都市と建築の外部色彩アカデミック・スタンダード刊行 	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：宮本雅子 (滋賀県立大学) 幹事：熊澤貴之 (岡山県立大学) 委員：池田圭介 (松田平田設計)、石田泰一郎 (京都大学)、稲垣卓造 (大同大学)、井上容子 (奈良女子大学)、飯島祥二 (琉球大学)、大野治代 (大手前大学)、郭 清蓮 (金沢工業大学)、北村薫子 (武庫川女子大学)、佐藤仁人 (京都府立大学)、中山和美 (東京電力)、名取和幸 (日本色彩研究所)、榎 究 (実践女子大学)、山本早里 (筑波大学)</p>	
設置 WG (WG 名：目的)	<p>街路景観色彩のアカデミック・スタンダード準備 WG 街路景観のアカデミック・スタンダードを刊行するのに必要なデータを収集すること</p> <p>建築室内の色彩と材料の実態調査 WG 建築空間に使用されている色彩および素材の実態を調査すること</p> <p>建築色彩と質感の記録手法検討 WG 質感を現実に近い状態で記録する画像の撮影法および再生法について検討すること</p> <p>視覚的質感の記述法提案 WG (2009-2010 年度) 建築仕上げ材の視覚的質感を定量的に記述する手法を提案すること</p>	
2012 年度予算	70,000 円	ホームページ公開の有無：無 委員会 HP アドレス：

項 目	自己評価
委員会開催数	5 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	

<p>催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画</p>	<p>1. 建築・都市景観の色彩設計と質感 (資料名) 同上</p> <p style="text-align: right;">参加者数 35名</p>
<p>大会研究集会</p>	
<p>対外的意見表明・パブリックコメント等</p>	
<p>目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)</p>	<p>1. 景観色測定法の検討が進められており、シンポジウムでその成果を公表した。 2. シンポジウム 建築・都市景観の色彩設計と質感の開催により、現状の問題点を把握することができた。</p>
<p>委員会活動の問題点 ・課題</p>	<p>1. 定員により、小委員会としての新規委員募集が難しいこと</p>

- * 小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。
- * 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学本委員会用 自己評価欄

2012 年度 小委員会活動 自己評価

(最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	B
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>シンポジウム「建築・都市景観の色彩設計と質感」の開催により、小委員会・WGで検討している内容についての成果の公表を行うとともに現状の景観色彩設計に関わる問題点を把握することができた。</p> <p>街路景観色彩のアカデミック・スタンダード準備WGでは、街路景観色彩の測定法の検討が進められており、シンポジウムでその成果および今後の課題について公表した。</p> <p>建築色彩と質感の記録手法検討WGでは、昨年度行った研究者を対象としたシンポジウム「建築写真撮影・再生法 見た目を再現するために考慮すべきこと」を、学生向けに提供できるシンポジウムの内容で検討しているが、実施に至っていない。</p> <p>2012年度は、建築室内の色彩と材料の実態調査の検討が進まなかった。</p>

- 総合評価は4段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。